

令和6年度第4回塩竈市子ども・子育て会議 議事概要 報告書

1. 会議名	令和6年度第4回塩竈市子ども・子育て会議
2. 日時	令和7年2月7日(金) 18:30~19:30
3. 場所	市民交流センター第2・3会議室(壱番館庁舎5階)
4. 出席者	<塩竈市子ども・子育て会議委員> 9名(欠席2名) <塩竈市> 7名 福祉子ども未来部長、子ども未来課長、課長補佐、子ども企画係主査、 保育課長、課長補佐兼保育係長、 教育部学校教育課副参事兼課長補佐兼指導主事 <委託事業者> 1名

<議事概要>

1. 開 会 司会(課長補佐)

2. あいさつ 塩竈市子ども・子育て会議会長より

3. 議 事

(1) 協議事項

①「第3期のびのび塩竈っ子プラン」の計画書最終案について

・資料1~4を使用し、第3期のびのび塩竈っ子プランの計画書最終案とりまとめについて、素案に対するパブリックコメントの結果と、反映した内容等について説明した。

4. 事務連絡等

5. 閉 会

<議事>

(1) 協議事項

～～①の協議事項について、事務局より説明～～

- 【議 長】 事務局から、パブリックコメントの結果をどのように最終案に反映するかについて、資料1と資料2を用いて説明がありました。また、統計資料等に更新があった点についても、資料3を用いて説明がありました。事務局の説明に関してご質問等がありましたらお願いします。
- 【委 員】 パブリックコメントに対して真摯に回答していただいているのだなと率直に感じました。他の自治体で、これほどパブリックコメントを反映しようとするところがあるのかなと。市民からの声が反映されていることに嬉しく思います。
- 1点だけコメントさせていただきます。資料1の3番目の不登校に関するご意見についてです。市の回答案では、「保護者への支援」を追記すると書かれており、今後の進展が期待できると感じました。一方で、その支援のポイントとなるのが「コラソン」だと思います。コラソンが、子どもを学校へ行かせるためだけの施設ではなく、社会的自立も考えているものであることを回答案に一言でも入れていただけないでしょうか。コラソンがそのような施設であることが市民に伝わるだけでも、イメージが大きく変わると思います。コラソンは、学校に戻すだけでなく、社会的自立を支援することを目的としていることを含めていただけると良いのかなと思います。
- 【議 長】 今の提案について、事務局から何かありますか。
- 【事務局】 コラソンについては、数年前まで学校復帰を目的にしておりました。一方で、平成29年に教育機会確保法が施行され、令和元年に文部科学省から「不登校児童生徒への支援の在り方について」という通知が出されました。この通知において、不登校児童生徒の支援は、学校に登校することだけを目標とせず、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指す必要があると示されました。これを受けて、本市においても、コラソンの在り方というのは、学校復帰だけでなく、社会的自立を目指すものであると、改めて確認していたところです。しかしながら、このことは市民の方へ十分に周知されておりました。そのため、今回の市の回答案にコラソンの目的を明記させていただき、市民の方へ周知していきたいと考えております。
- 【議 長】 コラソンという特定の施設に限らず、塩竈市全体の方向性として、文科省の通達を踏まえて、このように考えていきたいということが入っていれば、コラソンもその一部として含まれると思います。そうすれば、この保護者も安心なさるのかなと思います。特に、ご意見を寄せた人は、市の回答をご覧になると思います。具体的に書かれていると、行政の考えが伝わるのではないのでしょうか。委員の発言はその提案だと理解しています。今回のパブリックコメントで「コラソン」という固有名詞が出てきたことに注目しました。ここ数年、私が議長を務めてきた中では出てこなかった単語です。児童クラブの定数や保育所のあり方の問題はよく議論されますが、市民の声に耳を傾けることで、子育て支援の幅が広がっていると感じます。これは良い機会だと思います。寄せられた意見に対して市役所が寄り添った回答案を用意していることに敬意を表します。

他にご意見はありますか。

【委員】 パブリックコメントには具体的で切実なエピソードが多く含まれており、非常に勉強になりました。資料2の2ページに新設された「子ども・若者からの意見の聴取について」の項目にある「子ども・子育て会議への参加」は、子どもや若者もこの会議に参加できるという意味で合っていますか。

【事務局】 この件については、今後どのような参加方法が適切かを検討していく予定です。塩竈市では、こども計画の策定も予定しており、その中でどのように子どもの意見を取り入れるかについて、委員の意見も参考にしながら検討していきたいと考えています。

【議長】 この件は、子どもの権利条約に基づき、子どもが行政の施策に対して主体的に意見を述べる権利を有していることに基づいています。実際に子どもにどのような場を提供し、どの程度意見が出るかは次の段階として、まずは参画のための土俵をどう作ることが次年度以降の課題となります。今回の調査で子どもの意見を聞ければ、計画が他市と比肩するものになったでしょうが、次のステップに向けた部分が計画に明記されることには大きな意義があります。子どもの参画方法については、例えば夜の会議に参加させることなど、様々な問題がありますが、今後詰めていくことにします。これまでも児童クラブの委託等で事業者選定の際に若者の意見を聞くために若者代表を入れていたため、子ども・若者の参画が全くゼロというわけではありません。今後の施策全般について、子ども・若者の意見を聞く場を作ることについて、市役所も同じ意見と思います。具体的な参画方法については、皆さんと相談して決めていきたいと思っています。他にご意見はありますか。

【委員】 資料2の4ページ、「食育の充実」の「子ども食堂開催とサポートの充実」と、5ページの「子どもを支える地域体制づくり」の「各団体のネットワーク作り支援」について、具体的な案をお伺いできますか。

塩竈市を良くしていきたいと思っている人から、産後の女性を支える活動を春から取り組んでいきたいと伺っています。その他にも、子ども食堂に取り組みたいと相談を受けている人がいます。

塩竈市を良くしたいと思っている人が大勢いることを肌で感じており、今すぐにでも動き出せるメンバーがたくさんいます。具体的に用意していただけたら、より早く問題解決につながるのではないかと考えています。今すぐにでもサポートが欲しい、という状況もあるようです。先日悲しい事件も起きましたので、早めに動いていただけると助かりますが、今の段階で具体的な案がありましたら、教えていただけますか。

【事務局】 塩竈市の「こどもほっとスペースづくり」事業で支援を行っています。その中で、実際に子ども食堂を行っている方から、子ども食堂の周知方法に課題があるとの意見を受け、Instagramを活用した情報発信を行っています。行政からの通知があると安心して参加できるとの声もあり、今後も多くの団体に声掛けをして、周知を図っていく予定です。ネットワーク作りについては、県全体での取り組みに参加しつつ、塩竈市内でのネットワーク作りにはまだ対応できていません。食材のシェアなどの取り組みを市でも制度化できればと考えています。また、先日悲しい事件がありました。ファミリー・サポート・センター事業など、地域と結びついた子育て支援を強化していきたいと思

ます。年配の方々とも連携していくことを目指しています。

【事務局】 子ども未来課では、子ども食堂の運営に対して補助金を提供するだけでなく、食材の寄付を子ども食堂に繋げる取り組みも行っています。生協などの団体や企業とも連携し、支援を行う橋渡し役を担っています。行政として、運営の継続を支援する役割を果たしていきたいと考えています。また、ネットワーク作りについては、子どもだけでなく、高齢者や障がいを持つ方々も含め、誰とも繋がっていない方をなくすためのネットワークを構築したいと考えています。町内会や各種団体とも意見交換や情報交換ができる仕組みを作っていくことを目指しています。

【委員】 何か市のために行いたいと思った際には、市に相談に行けば、何か案をいただいたり繋いでいただいたりするという理解でよいでしょうか。

【事務局】 こどもほっとスペースづくり事業では、補助金の交付とともに相談事業も行っています。漠然と「何かしたい」という相談にも対応しており、既存の団体に所属している方からの具体的な相談にも応じています。どのようなことでも相談していただければと思います。

【議長】 サービスの持続性と安定性を確保するために、市がどのような支援ができるかを考える必要があります。市は、サービスの告知や食材提供の調整など、様々な役割を果たすことができます。子ども・子育て会議でも、委員からの提案を受け入れ、アイデアを議題にしていくことが重要です。他にご意見ありますか。

【委員】 私は子ども食堂の運営に関わっています。私たちの団体は「ほっとスペース事業」の助成金を受けていませんが、そのような団体でも市からの相談や食材のシェアに関するお知らせがあるのか、また市に相談しても良いのかを知りたいです。

【事務局】 ほっとスペース事業については、補助金を受けていない団体からも相談を受けています。事務局にお申し、周知をしてもらったこともあります。

【議長】 ほかにいかがですか。

【委員】 子ども食堂や子育て支援については、子どもだけでなく高齢者や地域住民も含めて考えるべきだと思います。資料2の「ネットワークづくり」にもその考えが含まれていると思いますが、担当課が子ども未来課だけでは、地域の各団体をまとめるのが難しいのではないかと感じます。市民協働推進室と連携して取り組むべきではないかと思いい、担当課が子ども未来課だけで良いのか質問させていただきました。

【事務局】 今回の計画は「子ども」をキーワードにしていますが、上位計画である地域福祉計画では、お年寄りや障がいを持つ方も含めて支援し、一人も取り残さないセーフティネットを目指しています。市民協働推進室と協働し、ボランティアや市民ネットワーク、町内会と連携して活動を進めていくことが不可欠です。その連携を活かして活動していきたいと思いい。

【議 長】 担当課の名称はこのままで、実際の運用では協調しながら取り組むということによろしいですね。他に質問はありますか。

【委 員】 資料1のパブリックコメントの9番と10番には、子どもが遊べる施設に対する不満や改善案が具体的に書かれています。回答案には、施設全体で意見を共有し、利用者のニーズを捉えながら進めていくとありますが、既存の施設の見直しを求める意見だと思えます。新しい施設を作るのではなく、すぐに取り組める部分だと思うので、早めに対応していただきたいです。

【事務局】 エस्पは生涯学習課の所管で指定管理により運営されています。「しずかに」と言われることについては、私たちも聞いています。エस्पは様々な用途で使われていますが、年代に応じたフロア分けやエリアスペースの活用など、ルールや基準を設けた運用が望ましいです。すぐに取り組めることなので、生涯学習課を通じてエस्पの管理者や利用者に声をかけたいと思います。

【議 長】 私が勤める大学の図書館では以前から「静かにしなさい」と書かれていましたが、最近は「ラーニング・コモンズ」のようなグループ学習ができる場所も増えています。これにより、静かにする場所と話しても良い場所が共存しています。限られたスペースで様々なニーズに対応するため、図書館の「ラーニング・コモンズ」の事例は参考になるかもしれません。委員の意見は、新しい施設を増やす前に既存の施設をどう改善するかという視点で、市としても受け取ったということによろしいですね。施設のルールや環境については、回答案に書くべきかどうかを検討いただければと思います。

【事務局】 私たちの課も話し合いや働きかけを行いますが、担当課に確認しながら、住民に寄り添ったコメントを入れるようにしたいと思います。

【議 長】 子どもが遊べる施設についての住民の不满に対して、「意見に基づいて議論を進めていきたい」といった回答案を記載いただければと思います。他に質問はありますか。後から気づいたことがあった場合、いつまで待っていただけますか。

【事務局】 来週1週間程度で意見をいただければと思います。

【議 長】 わかりました。最終計画案は今日の意見を踏まえて承認し、何かあった場合は後から伝えることにします。その取扱いについては事務局に一任します。今日はパブリックコメントに対する展開を議論する場となりました。以上で議事を終了します。スムーズな議事進行にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

<事務連絡等>

【事務局】 事務連絡として、3月13日（木）に第5回子ども・子育て会議を今回と同じ時間、この場所で開催する予定です。改めて開催案内の通知文を送りますので、日程の調整をお願いいたします。

【議 長】 次回の議題は何ですか。

【事務局】 計画最終案について、委員の皆様から意見が出れば、それを反映した最終案を提示します。例年、放課後児童クラブや保育所の申し込み状況も提示していましたが、その他については確認をしたいと思います。

【議 長】 わかりました。ありがとうございます。

【事務局】 最後に福祉子ども未来部長より閉会のご挨拶を申し上げます。

～～閉会のあいさつ～～

【事務局】 以上をもちまして、令和6年度第4回塩竈市子ども・子育て会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。